



学校だより 6月号



令和8年 5月29日
横浜市立三ツ沢小学校



体験を通して“感性”を磨く

校長 益子 照正

今週前半の2日間で実施した6年生・日光修学旅行に同行してきました。

10日ほど前から天気予報を気にしていましたが、特に2日目となる27日にしばらく“雨マーク”が表示されていたため、少々心配しておりましたが、結果的には朝から日が差し込み、東照宮に到着したころには夏の訪れを感じさせる中での見学になりました。

この天気予報を覆したこともそうですが、6年生は奇跡を起こす運をもっているようです。私が校長職について8年目ですが、過去に実施した修学旅行で、6年生全員が参加することは一度も叶いませんでした。しかし、この修学旅行では、出発時に集合した全6年生148名が途中リタイアすることなく、全行程をコンプリートしました。このことから、さまざまな状況の中で学年集団として良好な関係を築いてきたことが心理的安定性を担保していることがうかがえます。



輪王寺三仏堂前にて 奇跡の一枚

その一例が右の写真です。2日目の日光山輪王寺・大猷院拝殿を見学するときの入口の様子です。155名の靴が美しく揃えられています。おそらく、最初の数名がこのきっかけをつくったのでしょう。続いて入場する仲間に「最初に秩序を乱したくない」という強い心理的抵抗感を引き出すのです。これは、マナー向上のための仕掛けとして、優れた組織が取り入れている仕組みです。顕著なのが「東京ディズニーリゾート(TDR)」のものです。TDRでは、「ささいな汚れや設備の傷を放置すると、モラルが低下しさらなる状況悪化を招く」という心理学「割れ窓理論」を応用し、パーク内で清掃や修繕を徹底しています。そして、夢の国としての秩序と治安をゲスト自身の自主的な行動によって生み出しているのです。6年生には、さらに感性を磨き、実生活においてこの心理を応用して先頭に立つ人材になってほしいと願っています。ただ、現時点では、6年生の誰が先頭になってもこのような状況を生み出す域に達しているわけではありません。だからこそ、学校におけるたくさんの学習を通じて、未来社会で活躍できるように、日々の子どもの行動を価値づけ、そして定着させていく必要があると考えています。これが学校の使命です。



大猷院拝殿入口にて

修学旅行を終えて三ツ沢小学校に戻った6年生に、2日間の振り返りを聞いてみました。

「陽明門の逆さ柱がなぜ1本だけなのかを知り、新しい発見ができた」(男子)

「2時間半のハイキングは長いと思ったけど、景色を見ていたらあっという間に感じられた」(女子)

「鳴き龍の真下で音を出すと、本当に龍の口から声が聞こえてきて、すごかった」(男子)

「益子焼絵付け体験で、想像通りのよい作品をつくることができた」(男子)

いずれも体験を通さなければ獲得できなかったもので、感性が磨かれていることがわかります。

これからも各学年の体験学習が続きます。どの学年においても、このような体験を伴う学習を通して、豊かな感性を育てていきたいと考えています。